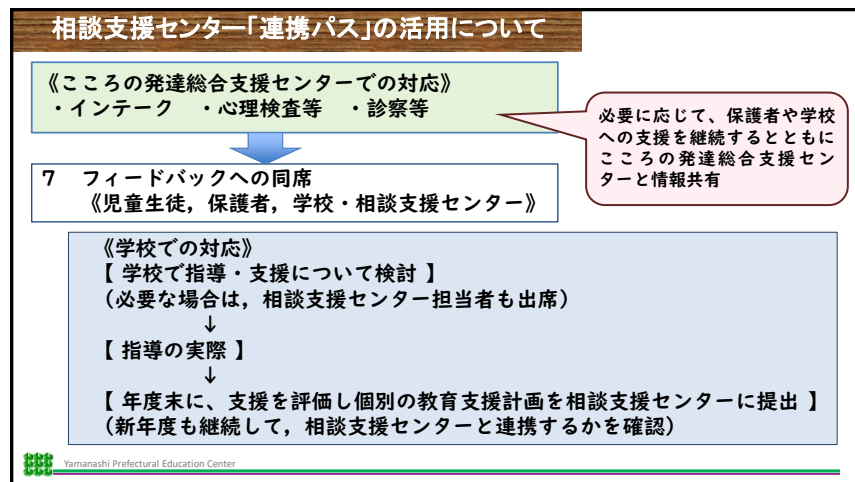


9



10

相談支援センターとの定期的な連絡会

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1回	・年間予定の確認 ・両センターの業務内容等の紹介 ・連携パスについて ・発達総合支援センター見学	・年間予定の確認 ・両センターの業務内容等の紹介 ・連携パスについて ・発達総合支援センター見学	・年間予定の確認 ・両センターの業務内容等の紹介 ・連携パスについて ・発達総合支援センター見学
第2回	【学習会①】 「特別支援教育の現状について」 (教育センター) 深澤 「特別支援学級及び通級指導教室における具体的な支援について」 (教育センター) 横川	【学習会①】 7/1 「特別支援教育の現状」 (相談支援センター) 伊藤 「インクルーシブ教育推進」 (相談支援センター) 藤 「学校におけるユニバーサル具体的な支援」 (相談支援センター) 横川	【学習会②】 10/1 「読み書き障害の診断と支援」 (ここセン) 所長 (ここセン) 小宮山
第3回	【学習会②】 「前項業の発達とADHDでよく使われるツリのお話」 (ここセン) 所長	【学習会②】 10/1 「読み書き障害の診断と支援」 (ここセン) 所長 (ここセン) 小宮山	・来年年度の計画 ・情報交換 ・1/30(木)本田Dr.によるバイズ
第4回	・まとめ(アンケート)について ・来年度の連絡会の日程について ・事例検討会①	・まとめ(アンケート)について ・来年度の連絡会の日程について ・事例検討会①	・来年年度の計画 ・情報交換 ・1/30(木)本田Dr.によるバイズ
	学習会 2回 事例研 1回 情報交換など	学習会 2回 情報交換など 事例研→医療連携・発達障害研修会にて検討実施	

※10年以上続けてきた連絡会において、「連携パス」の成果や課題について検討する
※県内の小児科、精神科等が参加している医療会議に、こころの発達総合支援センターを仲介として出席するなど連携を強化

Yamanashi Prefectural Education Center

11

学力の弱さがみられ、集団活動への参加が苦手で、学習及び登校意欲が低い児童

- ◆小学校 通常学級 6年生 男児
- ◆診断等なし、関係機関との連携なし
- ◆学習の定着が難しい。漢字2年生程度。算数ではかけ算を覚えられない
- ◆5年生3学期から不登校傾向。6年生始めは、保健室登校
- ◆友だちとの関係は良好で、やりとりについて課題は感じられない
- ◆指導経過 3,4年生：授業中にフラフラと出て行ってしまふことが多い
5年生：約束をすることで教室にはいるが、授業には参加できない。
算数にて個別指導を行うが、3学期から不登校
6年生：給食前あたりから保健室登校
校長室で授業をうけることで、給食から登校増
- ◆家庭の状況 父 母 本人

Yamanashi Prefectural Education Center

12

1. 相談支援センターにて検査実施

- WISC-IVを実施し、知的水準（GAI）は平均域
- 検査の様子から平仮名のた行以降の並びが分からないことが判明した
- 母親から、①学校へ行きたくないこと、②勉強についていけないこと、③スマートフォンばかりなこと、といった課題が挙げられた
- 本人から、漢字が苦手なことや自分が悪くないのに先生から怒られるから学校へ行きたくない、といった困り感が挙げられた
- 検査後の検討会では、検査の様子や聞きとりから読むことに苦手さはありそうだが、①WISC-IVからは読み取れないこと。②単純な書き写す等の作業は苦手ではないこと。③分かることには意欲的であること。④保護者及び学校の希望があれば、他機関と連携することが望ましいこと、が挙げられた

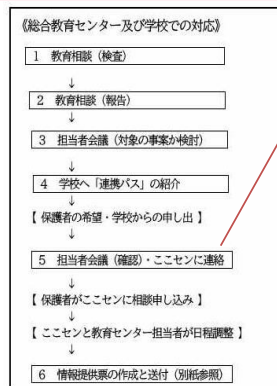


保護者及び学校の希望により、「連携パス」事例となる



13

2. 「連携パス」活用の流れの確認



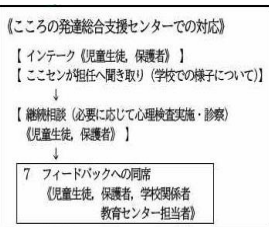
学校の先生方より、これまでの本児に対する気づきを収集

- 無気力で学習に向かわせるのが難しいと感じた
- 2年生のときから授業を聞いてもよくわからなかった、と言っていた
- 「九九を覚えていない。漢字はもっとやばい」と言っていた
- 北⇒兆、と書いていることがあった
- 問題文が読めず、知らない言葉が多い
- 対人関係では優しい、手伝いも積極的。困っていると助けてくれる
- ゲームや球技以外の運動が得意



14

3. 学校との連携

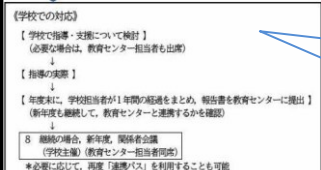


- 相談において、宿題（家庭学習）の困難があるとのことだったため、夏休み前に学習状況にあったプリントの紹介
- 学校訪問を行い、学習状況の把握、助言
- 個別の教育支援計画の記入を依頼
- 本児にあった合理的配慮について助言
- 校内研修にて、特別支援教育に関する講義の実施
- 相談支援センター指導主事及び管理職、担任がこころの発達総合支援センターへ同行



15

4. 「連携パス」以降の支援



*音読については大きな苦手さはない
*書字障害
*ワーキングメモリの弱さ
*不注意 が挙げられた

- こころの発達総合支援センターでは、K-ABC IIと音読検査を実施したため、これらの結果から学習や教材等について助言を行った
- 中学校への引継ぎ及び合理的配慮の合意形成について、相談支援センター指導主事が参加した
- 中学校における学びの場（通級による指導）の検討及び合理的配慮を引き継ぐため、診断書の発行を保護者へ依頼した
- 学校の依頼に応じて、継続的な学校訪問及びケース会議へ指導主事が出席した



16

5. 相談支援センターにおける「連携パス」の成果と特徴

- 学習障害の気づきにくさ
 - ⇒ WISC等の検査では読み書き等に関する苦手さについては把握できない
 - ⇒ 不登校等、行動として現れてからでないと子供自身の困難さに気づきにくい
- 支援の難しさ ⇒ 一斉授業の中では支援体制や個別の対応がしにくい
- 学習障害の児童生徒の学びの場や専門家が少ない状況

成果・特徴

- 個別の教育支援計画を活用することで、保護者、本人の希望を踏まえた合意形成がなされ、教員間や学校間連携に活用できた
- 医師等、外部専門家からの助言が活かしやすく、関係機関との連携に活用できた
- 診断までの期間が短く、本人の困難さにチームで対応できた

Yamanashi Prefectural Education Center

17

成 果

- こころの発達総合支援センターにもともとある制度（関係機関連携パス）を、相談支援センターが活用の流れを整理し、仲介することで、待機時間がなくフィードバックできた
- 相談支援センターが医療側に必要な学習の状況や課題について整理することで、こころの発達総合支援センターでの早急及び適切な診察に活かすことができた
- 相談支援センターでできる心理検査の限界はあるため、本人及び保護者の支援に活かせる診察、診断を推進できた

Yamanashi Prefectural Education Center

18

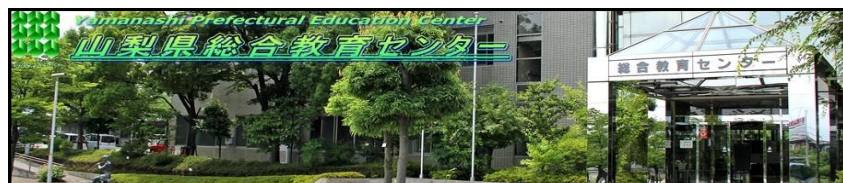
課 題

教育相談では、これまでの知的障害や行動における課題だけではなく、学習の定着の難しさといった学習障害等の相談が増加している

- ◆ 学習障害を含む発達障害の気づきにくさ
 - ⇒ 不登校等の行動として現れてからでないと子供自身の困難さに気づきにくい
- ◆ 支援の難しさ
 - ⇒ 一斉授業の中では支援体制や個別の対応がしにくい
- ◆ 学習障害の児童生徒の学びの場や専門家が少ない状況
 - ⇒ **各地域において連携の中核となる人材の育成が急務**

Yamanashi Prefectural Education Center

19



ご清聴ありがとうございました

教育関係間（学校・市教委・教育センター等）、他業種（福祉、医療、行政等）との連携の課題についてお聞かせください

山梨県総合教育センター相談支援センター 特別支援教育担当
主幹・指導主事 原 満登里

Yamanashi Prefectural Education Center

20